

上海⇔東京

## 子育てメール便 (2)

橋本雅子  
津守多実

まさこことたみは東京の養護学校での仕事を通じて知りあった子育て仲間。まさこの子ども愛佳は三歳女兒。たみの子どもクナは五歳男児。まさこ一家が夫、申屠（スンドウ）の出身地である中国上海に転居し、上海の暮らしがスタートして数週間がたちました。

### 来客時の様子

まさこ 今日引越し後半の荷物が船便で届き、愛佳の遊び場は広がった荷物でしっちゃんかめっちゃんか。愛佳はなじんだ品々の中でむしろ落ち着いて遊んでいます。

さらに今日は来客、朝から家中の大掃除。何しろお客様は家中見

て回るので大変です。しかも、どうやら宿泊されるよう、申屠も今朝まで予定を知らず。とはいえ顔見知りの人、私も戸惑う気持ちを切り替え、日々を楽しむ愛佳の柔軟性を見習いたいと思いつつ…。

昨夜は突然、二組の娘と父、どちらも娘さんが大学二年生、日本語勉強中。時どき、日本語と中国語を教え合うことになりました。この突然の来客というパターンが多く、親しさの表現なのかもしれませんが。

たみ 愛佳ちゃんが安心していられる空間が整いつつあり、生活リズムができ、少しずつ生活が広がってゆく様子、興味深く読みま

した。それにしても、何て来客の多い家庭なんでしょうね。ウエルカムな家庭のよさと大変さを感じられます。そういうえば、東京にいたときも、しょっちゅう友達泊まりがけで来てましたよね。緊張ったもてではなく、雑魚寝だった子どもが泣いていたりした気楽な集まりがもてたことは、突然の来客を好ましいことと感じられる申屠の手柄が大きかったのかもしれない。来客大好きなウチの夫でも突然の泊まりは嫌がりそうです。今でも子ども連れの家族が来ることはありませんか？

まさこ 先日とは別の来客時の様子です。九月から小学入学の女兒

と両親、祖母の四人。申屠の幼なじみのいとこで、私たちの結婚式もアレンジしてくれた親しい親せきです。言葉のわからない私に、あれこれと気を配ってくれた温かい思い出があります。その娘も来るということで、愛佳も楽しみにしていました。

約束の時間に二時間遅れて正午近くの来訪。

定例どおり、家を案内し、最後に最上階の私たちの部屋を見せました。愛佳のおもちゃコーナーで、子ども二人の足は止まりません。ところが、一緒に遊ぼうと愛佳が用意するもの、手にするもの、いとこの娘はすべて取り上げ

て一人で遊びだすのです。愛佳は手を引っ込めて暗い顔。そばに立ついとこは申屠と話しているものの、状況が見えていないようでした。私は片言の中国語と身ぶりで、独り占めした皿などのままごと道具やレールを二人で遊べるように提案してみるのですが、大人の私には見せるように、愛佳には隠すように遊ぶので、間を取りもつになかなか苦労しました。

こういうとき、言葉が使えないもどかしさを一番感じます。

相手の子も、こちらが二人とも言葉がつかないことで、戸惑っていたのでしょう。空腹もあったことでしょう。そんなときに、ただ

できえ難しい、初めての出会いの場に、ものがたくさんある空間を設定したのも、誤りだったかなとも反省。

そんな二人も外食中にジュースを乾杯したりするうちに、言葉を介さない笑顔をかわず楽しさが生まれてきました。帰り道、手をつないだり、かけっこしたり、ようやく親しくなり始めたところで、帰宅後すぐに英語の演劇レッスンに行きました。

たみ うーん…。子どもたちとのことで起こったこと。このやりとりだけではわからないことも多いのですが、小学校に上がる年齢の子とすると、対人関係がとても幼

い感じがします。また、親の対応も日本とはかなり違います。日本では小さい子のおもちゃを取るということはタブーで、「かして、ありがとう」というやりとりが子どもにも親にも染みついている、うそっぽいほどだったことを思い出しませんか。

まさこ やりどりの幼い印象は、自宅で自分のおもちゃを守る二歳の子のようで、譲った愛佳が年長者に感じられるほどでした。愛佳が泣いたり怒ったりすれば、親も子も、反応はまた違ったのかもしれません。自然発生的な遊びの中で、ルールを調整しながら一緒に遊ぶ、という体験が薄いようにも

思います。イレギュラーなことへの戸惑いの様子から、何となくですが。

後で申屠いわく、「いとこは子どもが遊んでいる、というふうにとらえているだけで、その中で子ども同士に何が起きているか細かくは観察してはいないと思う」とのこと。普段は延長保育、祖母が育児をし、親子で唯一ゆっくり過ごせる週末はおけいこ事。自分の子が子ども同士で遊ぶ様子を見慣れていないこともあるのかもしれませんが。

### 子どもに望むもの

以前公園で、一歳くらいの子と

もが棒切れを愛佳にぶつけても、一緒にいる大人（多分祖母）がちらに謝る様子がなかったことでもあります。一概には言えないもの、私が感じる違和感は、大人が子どもに伝えようとする対人関係のマンナーの違いなのかもしれません。日本では一人っ子で育つことも多様性の中にあるけれど、こちらでは皆が一人っ子の難しさとも感じます。大人が何を伝えるか、幼稚園などの集団の場で譲ったり、相手を思うような場面をどのくらい大人と一緒に考えているのだろう、と考えてしまいました。

たみ おけいご事が多く、多岐にわたっていることは上海と東京の

状況はよく似ているようです。こちら東京でもさまざまなおけいご事が盛んです。「遊びながら」というフレーズがつくものも多いのがこちらの特徴かしら。遊びながらだから子どもは楽しんでいし、お勉強や何かが身につく、遊びにも目的があつて、他人に任せるという外注傾向を感じます。

私の周りでは、幼稚園の先生やさまざまな情報から「遊びは重要」ということが浸透しています。が、子どものごく普通のカタチにならない遊びは軽視する傾向があつて、「遊んでるだけだから」「幼稚園で遊んでるから」という言葉がよくでます。公園や園後の

子ども同士の遊びでも親と一緒に遊ぶことはあまりなく、トラブルになったときだけ親が登場します。ちよつとした大人のかかわりや見守るまなざしがあると、うんと落ち着いて遊べるのに……と、残念に感じるが多々あります。

まさこ こちらの幼児へのまなざしは、ほほ笑んで見守られることが多く、愛佳と二人では比較的自由に遊んでいます。ただ、どういう子どもになってほしいのか、目指すところが、日本とは違うように感じるがあります。小公園で愛佳がする遊びをまねて、祖父に激しくしかられる男の幼児、という場面は最初の一週間に何度か

あり、祖父母に苦情がいつてはいけないと心配になり、相談するほどでした。「たくましく育てほしい」って感覚、こちらの幼児から小学低学年に求めるところは、あまりないように思います。

たみ 日本のほうが身体感覚を発達させることを重要視しているのかもしれないね。規制の言葉が多い反面、「男の子はこのぐらいたくましくしないとね」という、身体的にも精神的にもたくましくあつてほしいという価値観があるのも確かです。

ただ、しかられるような遊びって、愛佳ちゃんはいたつて穏やかに遊ぶ印象があります。ルールや

遊具の使用方法はみ出す遊びということですか？ 愛佳ちゃんとかナが遊ぶときは遊具を使うことはあまりなく、葉っぱを集めてきたり、低い杭などに足をかけてみたり、水たまりをいじったり、そんな感じでしたよね。

まさこ 水のない池の縁や岩を私と手をつないで歩くようなことですが、今思うと、孫のけがを恐れてのことでしょうか。ただ、玩皮（ワンピー）とかいう言葉があり、遊びが好きな子どもを見下げる意味合いもあるようです。親の言つことをよくきく、外では遊ばなくてもよい、という価値観もあるよう。何しろ親しい接点がない

ので、まだよくわかりませんが。愛佳と散歩した小型犬を飼っている家には、一歳上の男の子がいるようです。でも、犬と一緒に散歩している様子は見たことがありません。教育熱心な両親が選んだ幼稚園のようですが、毎朝泣きながら連れて行かれています。祖父が言うには、「わがままに育てられているから」とのことですが、外遊びする様子もまだほとんど見ません。

こちらの幼児期の育児は、ご存じのように、祖父母がメイン、またはベビーンッターで、親が長時間直接かわるのは仕事のない休日に限られるようです。その日も

おけいご事に朝早くから出かける様子を見かけます。私も「あなたの娘ですか？」と聞かれる場面があるくらい、親子が平日、共にいることが異色のようです。それくらい共働きが常識といったところ。母親も出張残業が当たり前に受け止められ、子どもは夜九時まで

で託児もあったり、全寮制幼稚園もそんな社会状況によるものでしょうか。

とはいえ、いいことも。

小公園で、近所の子どもたちが今週末は夕方よく遊んでいました。その中で、先週私と三人で遊んだ女の子がいたので、愛佳はもうじき小学生になる（クナ君くら

いの）十人弱の子ども集団の後は一人追いかけていました。

小公園で同じ年くらいの子も遊んでいますが見向きもせず、年上の集団を追いかけるなんて、私から見ると、気後れせず、勇敢だなあ！

でも走り回る子ども集団の魅力は、そんなことを乗り越えさせる何かがあるんでしょうね。ほとんど相手にはしてもらえないのですが、目いっぱい走って追いかける気になる子どもたちのそばにつきず離れず、達成感。気持ちよく一日を終えることができました。

そしてこの女の子に付き添っていた母親が心をくだいてくれ、

「来たばかりでお友達がいないのね」と私に言ってくれたり、「ゆっくり話してあげて」というようなことを娘に話してくれたりしていました（普段は同居している夫の父親が育児担当）。そのお

かけか、翌日の夕方、出会ったときは女の子のほうから進んで手を差し伸べてくれ、本当にありがたかったです。愛佳がつくった初めての友達です。

